SONY

2-651-468-**04**(1)

シアタースタンドシステム

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

本機には次の2つの説明書があります。

- かんたん接続・設定ガイド
  基本的な接続方法と設置の仕方、基本的な操作方法について説明しています。
- 取扱説明書 (本書)
  詳しい設置方法と操作方法について説明しています。

S-FORCE PRO FRONT SURROUND　S-master Digital Amplifier　AAC

RHT-G1000

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

↓

安全のための注意事項を守る

4～8 ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。9 ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

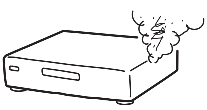
設置時や 1 年に 1 度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



➡

1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠危険

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電・破裂などにより死亡や大けがなどの人身事故が生じます。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



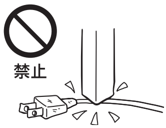
目次

⚠警告　火災　感電

下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

電源コードを傷つけない

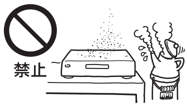
電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。
- 設置時に、製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。



➡ 万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や、直射日光のあたる場所には置かない

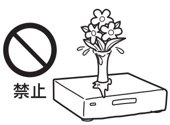
上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物が入らないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶などの水の入ったものを置かないでください。

➡ 万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。



キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

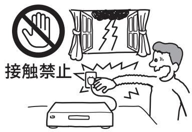
火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡ 内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。



雷が鳴りだしたら、本体や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



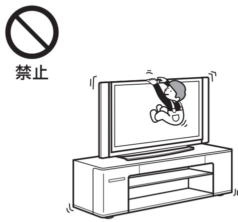
本機を日本国外で使わない

交流 100V の電源でお使いください。海外など、異なる電源電圧の地域で使用すると、火災・感電の原因となります。



スタンドにテレビを載せた状態で、ぶら下がらない

スタンドが転倒したり、テレビが落下して、大けが、死亡などの原因となることがあります。

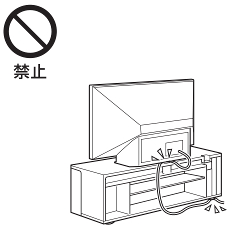


テレビや接続機器を設置したままスタンドを動かさない



スタンドを動かすときは、必ずテレビや接続機器をはずしてください。
テレビや接続機器を載せたままスタンドを移動させると、バランスを失いスタンドが倒れ、大けがの原因となります。

テレビとスタンドの間に電源コードおよび接続ケーブルをはさまないようにする



- 電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。
- スタンドを動かすときは、電源コードおよび接続ケーブルがスタンドの下にからまないようにしてください。
  電源コードおよび接続ケーブルに傷がついて火災や感電の原因となります。

スタンドの上に乗らない



スタンド天板の前面カバーがはずれてけがの原因となることがあります。

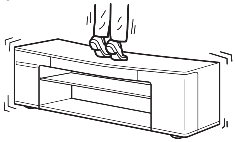
⚠注意

下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

踏み台にしない

倒れたり、落ちたりして、けがの原因となることがあります。





指定機器以外のものを取り付けない

- 指定の機器以外のもの（陶器や花瓶など）は置かないでください。
- このスタンドを改造しないでください。



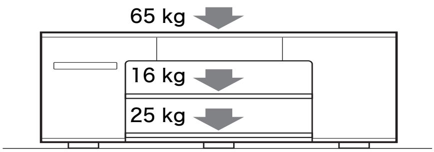
テレビを固定する



固定しないと、テレビが落下したり、スタンドが転倒してけがの原因となることがあります。この取扱説明書にしたがい、テレビの足をスタンドのストッパーに合わせ、付属の固定ベルトでテレビをスタンドに固定してください。

総積載量についてのご注意

下の図に示す質量以上のものを載せないでください。指定の質量を超えると、天板や底板が壊れることがあります。



ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。





風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

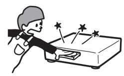




布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。





大音量で長時間つづけて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

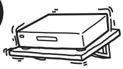
➡ 呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。



安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。





電源プラグは抜き差ししやすいコンセントに接続する

異常が起きた場合にプラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるように、電源プラグは容易に手の届くコンセントにつないでください。通常、本機の電源スイッチを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。



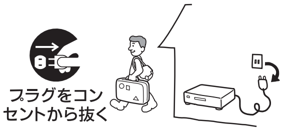
コード類は正しく配置する

電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。



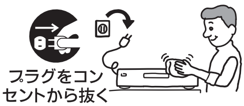
移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。



お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



設置上のご注意

- テレビを取り付けるときには、手や指をテレビとスタンドの間にはさんで傷つけないようにご注意ください。
- 設置場所によってはスタンドの変形や傾きが生じることがありますので下記のことをお守りください。

➡ 堅くて平坦な床面に設置する
➡ 畳、じゅうたん、カーペットなどの上に置く場合は板など堅い物を敷く
➡ 直射日光が当たる場所や、暖房器具のそばに置かない
➡ 高温多湿の場所や屋外に置かない

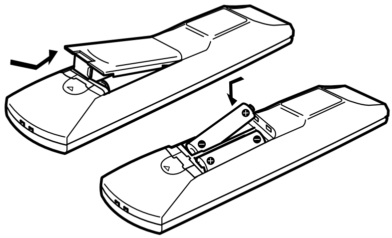
- スタンドを動かすときは、テレビや接続機器をはずしてから、必ず4人以上で運んでください。テレビが落下して大けがの原因となります。また、スタンドのスピーカーネットを持たないでください。スピーカーネットがはずれて落下するなどして、けがの原因となることがあります。

使用上のご注意

- 熱いものをスタンドに置かないでください。熱により変色、変形することがあります。
- 美しい状態でお使いいただくため、お手入れをする際には、やわらかい布で、軽くから拭きしてください。汚れがひどいときは食器用洗剤を5～6倍に薄め、やわらかい布に含ませて軽く拭き取ってください。シンナーやベンジンなどの化学薬品はスタンドの仕上げを傷めることがありますので、使わないでください。

リモコンに電池を入れる

付属のリモコンで本機を操作できます。＋と－の向きを合わせて、単3乾電池（R06、付属）2個を入れてください。



ご注意

- 高温、多湿の場所を避けて保管してください。
- 新しい乾電池と使った乾電池を混ぜて使わないでください。
- 乾電池を交換するときは、異物が入らないようにご注意ください。
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 長い間リモコンを使わないときは、液漏れや破裂を避けるために乾電池を取り出してください。

電池についての安全上のご注意

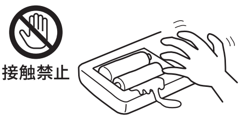
液漏れ・破裂・発熱による**大けが**や**失明**を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠危険

アルカリ電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

アルカリ電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。液の化学変化により、時間がたってから症状が現れることもあります。



必ず次の処理をする

➡ 液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。



➡ 液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

⚠警告

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

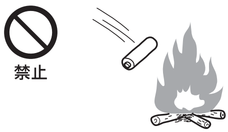
➡ 電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。



➡ 万一、飲み込んだときは、ただちに医師に相談してください。

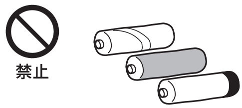
電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



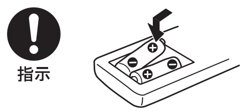
指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



＋と－の向きを正しく入れる

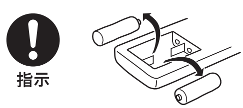
＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。



➡ 機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

使い切ったときや、長時間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。



使用上のご注意

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- ぐらついた台の上や不安定な所。
- 毛の長いじゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 特殊な塗装、ワックス、油脂、溶剤などが塗られている床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残る場合があります。
- 直射日光が当たる所、温度が高い所。
- 極端に寒い所。

設置時のご注意

本機は、ハイパワーアンプを搭載しています。そのため、本体背面の通気孔をふさぐと、機械内部の温度が上昇し、故障の原因となることがあります。本体背面の通気孔を絶対にふさがないでください。

音量を調整するときは

ディスクはレコードと比べ、非常に雑音が少なくなっています。レコードをかけるときのように音声の入っていない部分の雑音を聞きながら音量を調整すると、思わぬ大きな音が出て、スピーカーを破損するおそれがあります。
演奏を始める前には、音量を必ず小さくしておきましょう。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

本体のメモリーについて

停電になったり電源コードを抜いても、サウンドフィールドなど、本機に記憶された情報は約1日保持されます。

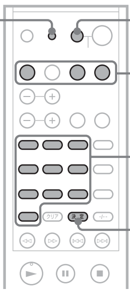
本機はドルビー*[1]デジタルデコーダーおよびドルビープロロジックIIアダプティブマトリックスサラウンドデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS*[2]デコーダーを搭載しています。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic、“AAC”ロゴ及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
以下が米国AACパテントナンバーです。
Pat. 5,848,391; 5,291,557; 5,451,954; 5,400,433; 5,222,189; 5,357,594; 5,752,225; 5,394,473; 5,583,962; 5,274,740; 5,633,981; 5,297,236; 4,914,701; 5,235,671; 07/640,550; 5,579,430; 08/678,666; 98/03037; 97/02875; 97/02874; 98/03036; 5,227,788; 5,285,498; 5,481,614; 5,592,584; 5,781,888; 08/039,478; 08/211,547; 5,703,999; 08/557,046; 08/894,844

*2 Digital Theater Systems, Incからの実施権に基づき製造されています。DTSおよびDTS Digital SurroundはDigital Theater Systems, Incの商標です。

リモコンを設定する

登録するメーカーコードを変えることで、ソニー製品以外の機器をこのリモコンで操作することができます。一度登録すると、次回から設定する必要はありません。お持ちのシステムの一部として操作することができます。さらにこのリモコンで、他のソニー製品を操作することもできます。操作することができるのは、リモコン信号を受光できる機器に限ります。



1 リモコンセットアップボタンを押したままAV電源ボタンを押す。

リモコンセットアップボタンが点灯します。

ご注意

- リモコンセットアップボタンは先の細いもので押してください。

2 操作したい機器をリモコンの入力ボタンで押す。

例えばDVDプレーヤーを操作したいときは、DVDボタンを押します。

ご注意

- リモコンのテレビボタンに、テレビ以外の機器を登録することはできません。

3 登録したい機器の３桁のメーカー番号を、リモコンの数字ボタンで押す（メーカー番号が複数ある場合は、そのうちの一つを選んで押す)。

メーカー番号については11～12ページをご覧ください（最初の１桁目は機器の分類を、次の2桁目と3桁目は、それぞれのメーカー番号を表しています)。

4 決定ボタンを押す。

本機がメーカー番号を確認すると、リモコンセットアップボタンがゆっくり２回点滅し、自動的に登録されます。

5 他の機器を登録したいときは、手順１から４を繰り返す。

登録をキャンセルするには

それぞれの手順の途中でリモコンセットアップボタンを押します。自動的にセットアップモードが終了します。

登録した機器を使用するには

登録した入力ボタンを押します。

登録に失敗したときは

- 手順1でリモコンセットアップボタンが点灯しない場合は、電池が消耗しています。新しい電池に交換してください。
- メーカー番号を入力するとき、リモコンセットアップボタンがすばやく4回点滅した場合はエラーです。手順１からやり直してください。

ご注意

- 正しいボタンが押されるとリモコンセットアップボタンは消灯します。

- 手順2でいくつかの入力ボタンが押されたときは、最後に押されたボタンが有効になります。
- 手順2でテレビ電源が押されたときは、テレビ音量＋/ー、テレビチャンネル＋/ー、テレビ/ビデオ、ワイドのボタンの機能だけが登録されます。
- 手順3で入力ボタンを押した場合、新しい入力が選ばれ、登録の手順は手順3の初めに戻ります。
- 手順３で入力するメーカー番号は、最初に押した3つの数字が優先されます。

リモコンの登録を消去するには

すべての登録が消去され、お買い上げ時の設定に戻すことができます。

音量ー、電源、AV電源の3つのボタンを同時に押す。

リモコンセットアップボタンが3回点滅したあと消えます。

メーカーと機器のコードについて

下記の表の番号を使って、ソニー製品以外の機器を操作できるようにします。また、リモコンがお買い上げ時の状態では操作できないソニー製品を登録することもできます。製造モデルや製造年によって、リモコンの信号が異なる場合があります。登録に失敗したときは、他の番号でやり直してください。

ご注意

- メーカー番号は最新情報に基づいて作成されていますが、お持ちの機器がすべてのメーカー番号に適さないことがあります。
- お持ちの機器によっては、このリモコンで特定の操作ができない場合があります。またこのリモコンで、すべてのボタンが操作できるわけではありません。

CDプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	101, 102, 103
デノン	104, 123
日本ビクター	105, 106, 107
ケンウッド	108, 109, 110
マランツ	116
オンキョー	112, 113, 114
パイオニア	117
ヤマハ	120, 121, 122

DATプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	203
パイオニア	219

MDプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	301

カセットテープデッキを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	201, 202
デノン	204, 205
ナカミチ	210
パイオニア	213, 214
ヤマハ	217, 218

ビデオデッキを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	701, 702, 703, 704, 705, 706
アカイ	707, 708, 709, 759
GE	721, 722, 730
LG/Goldstar	723, 753
日立	722, 725, 729, 741
日本ビクター	726, 727, 728, 736
Magnavox	730, 731, 738
三菱/MGA	732, 733, 734, 735
パナソニック	729, 730, 737, 738, 739, 740
フィリップス	729, 730, 731
パイオニア	729
SAMSUNG	742, 743, 744, 745
サンヨー	717, 720, 746
シャープ	748, 749
東芝	747, 755, 756

DVDプレーヤーを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	401, 402, 403
パナソニック	406, 408
フィリップス	407
パイオニア	409
東芝	404
デノン	405

次のページへつづく

DVDレコーダーを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	403

テレビを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	501
Daewoo	504, 505, 506, 515, 544
LG/Goldstar	503, 511, 512, 515, 534, 544
日立	513, 514, 515, 544
日本ビクター	516
三菱/MGA	503, 519, 544
NEC	503, 520, 544
パナソニック	509, 524
フィリップス	515, 518
パイオニア	509, 525, 526
SAMSUNG	503, 515, 531, 532, 533, 534, 544
サンヨー	508, 545, 547
シャープ	535
Thomson	530, 537, 547
東芝	535, 541

衛星放送チューナーまたはケーブルテレビチューナーを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	801, 802, 803, 804, 821, 822, 823, 824, 825
パナソニック	818

ハードディスクレコーダーを操作するには

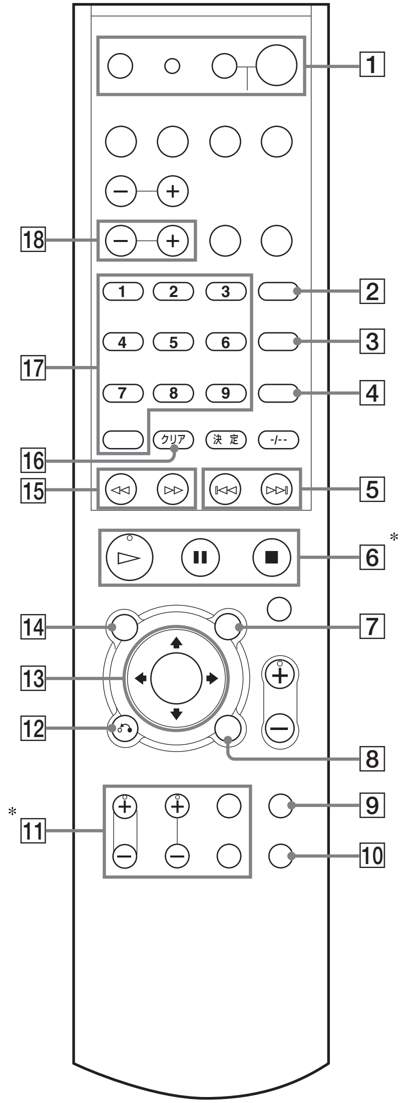
メーカー	メーカー番号
ソニー	307, 308, 309

ブルーレイディスクレコーダーを操作するには

メーカー	メーカー番号
ソニー	310, 311, 312

接続した機器を操作する

操作したい機器の入力ボタンを押すことで、接続した機器を操作できます。



＊ ▷ボタン、テレビ音量＋ボタン、テレビチャンネル＋ボタン、音量＋ボタンには凸点(突起)が付いています。操作の目印としてお使いください。

共通する操作

リモコンボタン	機能
1 AV電源	オーディオやビデオの電源を入れたり、切ったりする。
1 システムスタンバイ (AV電源ボタンと電源ボタンを同時に押す)	本機と、ソニー製の他のオーディオやビデオ機器の電源を切る。
7 AV メニュー	メニューを表示する。

DVDレコーダーやDVDプレーヤーを操作するには

リモコンボタン	機能
2 音声	音声を切り換える。
3 字幕	字幕を表示する。
4 アングル	複数の映像が記憶されているときに映像を切り換える。
5 ⏮/⏭	チャプターを指定する。
6 プレイモードボタン	▷ (再生)/❚❚ (一時停止)/■ (停止)
8 画面表示	テレビ画面上に情報を表示する。
12 ↶リターン	1つ前のメニューに戻る。
13 ←/↑/↓/→/決定ボタン	矢印のボタンでメニュー項目を選択し、決定ボタンで選択した項目を確定する。
14 トップメニュー / ガイド	DVDのタイトルを表示する。
15 ◁◁/▷▷	チャプターの早送り/早戻しをする。
16 クリア	誤って入力した数字を取り消したり、連続再生に戻す。
18 チャンネル+/−	チャンネルを切り換える。

テレビを操作するには

リモコンボタン	機能
1 テレビ電源	テレビの電源を入れたり、切ったりする。
2 音声	音声を切り換える。
8 画面表示	テレビ画面上に情報を表示する。
11 テレビ/ビデオ	テレビまたはビデオ入力画面に切り換えます。
11 テレビチャンネル +/−	あらかじめ登録したテレビのチャンネルを選ぶ。
11 テレビ音量 +/−	テレビの音量を調節する。
11 ワイド	ワイド画面に切り換える。
17 数字ボタン	チャンネル番号を入力する。
18 チャンネル +/−	あらかじめ登録したチャンネルを選ぶ。

衛星放送チューナーを操作するには

リモコンボタン	機能
10 ジャンプ	現在のチャンネルと1つ前のチャンネルを切り換える。
12 ↶リターン	メニュー画面を終了する。
13 ←/↑/↓/→/決定ボタン	矢印のボタンでメニュー項目を選択し、決定ボタンで選択した項目を確定する。
14 トップメニュー / ガイド	ガイドメニューを表示する。
17 数字ボタン	チャンネル番号を入力する。
18 チャンネル +/−	あらかじめ登録したチャンネルを選ぶ。

次のページへつづく

ビデオデッキを操作するには

リモコンボタン	機能
2 音声	音声を切り換える。
6 プレイモードボタン	▷ (再生)/II (一時停止)/■ (停止)
8 画面表示	テレビ画面上に情報を表示する。
9 アンテナ	アンテナから出力される信号：テレビ出力やビデオ出力を選択する。
13 ←/↑/↓/→/決定ボタン	矢印のボタンでメニュー項目を選択し、決定ボタンで選択した項目を確定する。
15 ◁◁/▷▷	早送り/早戻しをする。
18 チャンネル +/–	チャンネルを切り換える。

オーディオ機器を操作するには

リモコンボタン	機能
5 I◁◁/▷▷I	トラックを指定する。
6 プレイモードボタン	▷ (再生)/II (一時停止)/■(停止)
15 ◁◁/▷▷	早送り/早戻しをする。
17 数字ボタン	トラックの番号を入力する。10曲目を選択したいときは0/10を押す。
18 チャンネル +/–	チャンネルを切り換える。

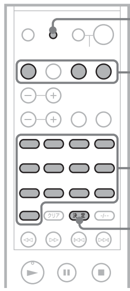
ご注意

- 上記の説明は基本的な操作の一例です。接続している機器によっては操作できないか、または表とは異なった動作をする可能性があります。
- 本機でのアンプメニューなどで、←/↑/↓/→を使いたい場合は、先にアンプメニューボタンを押してください。
  他機でのメニューを操作するなどで、←/↑/↓/→を使いたい場合は、入力ボタン、AVメニューボタン、トップメニュー /ガイドボタンのいずれかを押してください。

ソニー製テレビを操作するためのリモコン設定を変更する

(インプットシンクロ機能)

付属の「かんたん接続・設定ガイド」でテレビのビデオ入力１以外につないだ場合、以下のようにリモコン設定をします。本機の入力ボタンを押すだけで、自動的にテレビの入力を変えることができます。



1 リモコンセットアップボタンを押しながら、変更したい他機器の入力ボタンを押す。

リモコンセットアップボタンが点灯します。

ご注意

- リモコンセットアップボタンは先の細いもので押してください。

2 接続したテレビ側の入力端子を下の表から選び、対応するボタンを数字ボタンを使って入力する。

テレビ側の入力端子*	押すリモコンのボタン
ビデオ入力 1	1
ビデオ入力 2	2
ビデオ入力 3	3
ビデオ入力 4	4
ビデオ入力 5	5
ビデオ入力 6	6
ビデオ入力 7	7
ビデオ入力 8	8
コンポーネント入力 1	9
コンポーネント入力 2	音声
コンポーネント入力 3	字幕
コンポーネント入力 4	アングル

＊ テレビ側の入力端子名は、お使いのテレビモデルによって異なります。

3 決定ボタンを押す。

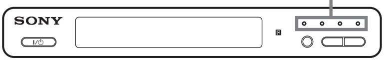
リモコンセットアップボタンが２回点滅し、設定は完了します。

この機能を使わないようにするには

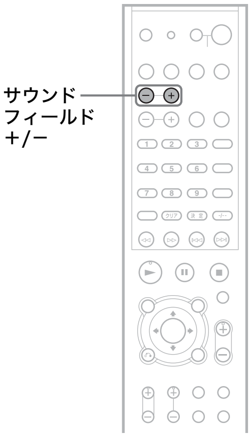
手順２で数字ボタンの「0」を押してから決定ボタンを押します。選択した入力ボタンを押しても、テレビの入力が自動的に切り換わらなくなります。

設定と調節をする

サウンドフィールドを選択する



ソニー独自のフロントサラウンドモード（S-Force PRO Front Surround）技術を採用することにより、サラウンドスピーカーを設置することなく臨場感溢れる5.1 chサラウンドを楽しむことができます。



サウンドフィールド ＋/ーボタンを押す。

現在選択されているサウンドフィールドが表示されます。

設定したいサウンドフィールドが表示されるまでサウンドフィールド ＋/ーボタンを繰り返し押します。

選択されているサウンドフィールドのランプが点灯します*。

* サウンドフィールドボタンを押して、AUTOを選んでいるときは、AUTOと自動選択されたサウンドフィールド（FRONT SURROUND、2CH STEREO）のランプが点灯します。

サウンドフィールドの種類

サウンドフィールドボタン	表示
AUTO（オート）	AUTO MODE
FRONT SURROUND（フロントサラウンド）	FRONT SURR*
2CH STEREO（２チャンネルステレオ）	2CH STEREO
NEWS（ニュース）	NEWS

* S-Force PRO Front Surround技術を使っています。

S-Force PRO Front Surroundとは

ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術です。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができます。

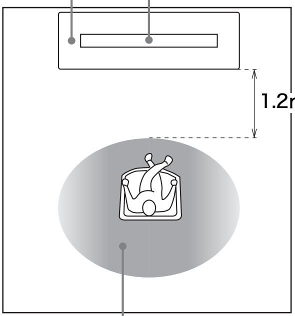
オリジナルサウンドを自動で選ぶ

■ AUTO（オート）

音声信号の種類を判別し、最適なサウンドフィールドを自動的に選びます。

フロントサラウンドシステムを楽しむ

■FRONT SURROUND（フロントサラウンド）
下図のようにフロントサラウンドエリア内で、より効果的なサラウンドを楽しめます。



2チャンネルステレオで出力する

■2CH STEREO（2チャンネルステレオ）
音声信号の種類にかかわらず、2チャンネルステレオで再生します。

テレビの音声を出力する

■NEWS
テレビのニュース番組やドラマなどの人の声をクリアにし、聞き取りやすくします。

ご注意

- 音源によってはサラウンドの効果を感じにくい場合があります。

ちょっと一言

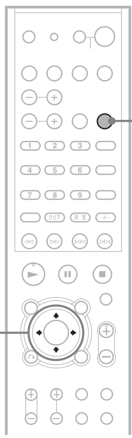
- 本機は入力信号ごとに最後に設定したサウンドフィールドを記録します。

アンプメニューを使う

リモコンのアンプメニューボタンを押すと、下記の設定ができます。
お買い上げ時の設定は下線の項目です。

フロントモード使用時

AMP MENU
- LEVEL
  - SW LEVEL (サブウーファーレベル)
    - -6dB - +6dB (<u>0dB</u>)
- CUSTOMIZE
  - AUDIO DRC
    - <u>DRC OFF</u>
    - DRC STD
    - DRC MAX
  - DUAL MONO
    - <u>MAIN</u>
    - SUB
    - MAIN+SUB
    - MAIN/SUB
  - A/V SYNC
    - <u>SYNC OFF</u>
    - SYNC ON
  - DIMMER
    - <u>DIMMER OFF</u>
    - DIMMER ON



次のページへつづく

1 アンプメニューボタンを繰り返し押して、アンプメニュー画面を表示させる。

2 ←/↑/↓/→を繰り返し押して、設定したい項目を選ぶ。

3 アンプメニューボタンを押して、アンプメニュー画面の表示を消す。

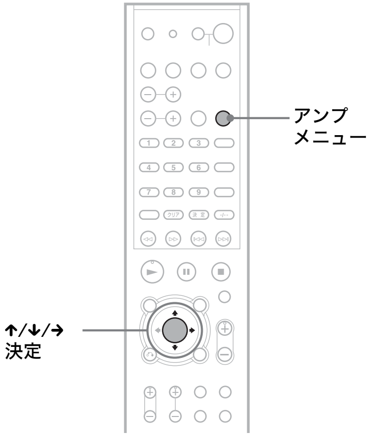
以下のページはアンプメニューの各設定について説明します。

ご注意

- ←/↑/↓/→を押しても操作できないときは、アンプメニューボタンをもう一度押してから、←/↑/↓/→を押してください。

スピーカーを設定する

ここではサブウーファーのレベル設定を行います。



1 DVDなどのマルチチャンネルサラウンド効果が記録されたメディアを再生する。

2 アンプメニューボタンを押す。

3 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「LEVEL」を表示させ、決定ボタンまたは→を押す。

4 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「SW LEVEL」を表示させ、決定ボタンまたは→を押す。

5 スピーカーの音を聞きながら、↑/↓を繰り返し押してお好みの設定を選ぶ。

■「SW LEVEL」（サブウーファーレベル）
お買い上げ時の設定：0dB
－6dB～+6dBの範囲で1dBごとに設定できます。

6 決定ボタンまたはアンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

小さい音量で楽しむ

(AUDIO DRC)

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。夜遅く、小さな音量で映画を観たいときに便利です。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 表示窓に「CUSTOMIZE」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。

3 表示窓に「AUDIO DRC」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。

次のページへつづく

4 ↑/↓を使って、設定を選ぶ。

- 「DRC OFF」：信号の幅は圧縮されません。
- 「DRC STD」：ソフト制作者が意図したようなダイナミックレンジで音声を再現します。
- 「DRC MAX」：信号の幅を最大限に圧縮します。

5 決定ボタンまたはアンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

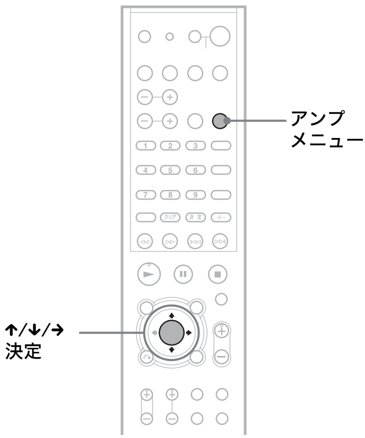
ご注意

- AUDIO DRCはドルビーデジタルのソースにのみ対応しています。

AAC（2ヶ国語放送）を楽しむ

(DUAL MONO)

AACとは、BSデジタル放送や地上波デジタル放送で採用されている音声方式です。
AACでは5.1 chのサラウンド放送や2ヶ国語放送にも対応しています。
BSデジタル放送などのAAC音声を聞くには、テレビなどデジタルチューナー搭載機器と本機を、光デジタルコード（付属）もしくは同軸デジタルコード（別売り）で接続してください。
また、テレビなどデジタルチューナー搭載機器側でも「光デジタル音声出力設定」などで設定を行う必要があります。デジタルチューナー搭載機器が、デジタル出力端子からAAC音声信号を出力するように設定してください。詳しくは、デジタルチューナー搭載機器の取扱説明書をご確認ください。
以上の準備が整った上で、下記の操作を行ってください。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **表示窓に「CUSTOMIZE」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。**

3 **表示窓に「DUAL MONO」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。**

4 **↑/↓を使って、設定を選ぶ。**

- 「MAIN」（主音声）：主音声のみを再生します。
- 「SUB」（副音声）：副音声のみを再生します。
- 「MAIN+SUB」（主＋副）：主音声と副音声が合成された音声を再生します。
- 「MAIN/SUB」（主/副）：左スピーカーから主音声、右スピーカーから副音声を同時に再生します。

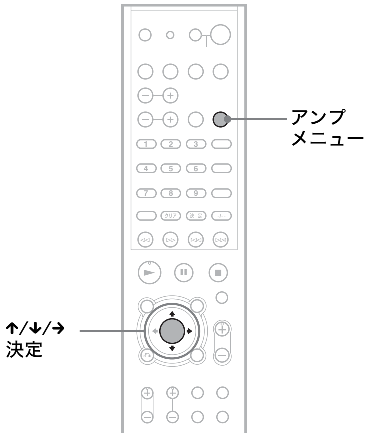
5 **決定ボタンまたはアンプメニューボタンを押す。**

アンプメニュー画面表示が消えます。

映像の遅れに音声を合わせる

(A/V SYNC)

映像が音声よりも遅れている場合、この機能で音声を遅らせることができます。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **表示窓に「CUSTOMIZE」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。**

3 **表示窓に「A/V SYNC」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。**

次のページへつづく

4 ↑/↓を使って、設定を選ぶ。

- 「SYNC OFF」：A/Vシンク機能を使わない。
- 「SYNC ON」：A/Vシンク機能を使って、音声と映像のずれを調節する。

5 決定ボタンまたはアンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

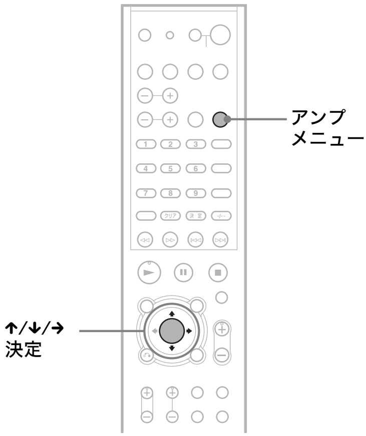
ご注意

- この機能を使っても、完全に映像と合わせることができない場合もあります。
- この機能はデジタル入力には効きますが、アナログ入力には効きません。

本体表示の明るさを調節する

(DIMMER)

表示窓の明るさを2段階で調節することができます。



1 アンプメニューボタンを押す。

2 表示窓に「CUSTOMIZE」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。

3 表示窓に「DIMMER」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。

4 ↑/↓を使って、表示窓の明るさを選ぶ。

- 「DIMMER OFF」：通常状態。
- 「DIMMER ON」：表示窓の明るさは暗くなる。

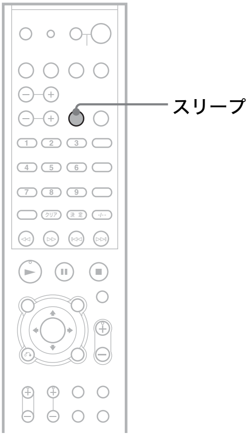
5 決定ボタンまたはアンプメニューボタンを押す。

アンプメニュー画面表示が消えます。

その他の操作

スリープタイマーを使う

音楽などを聞きながらお休みになるとき、設定した時間に本機の電源を切ることができます。時間は10分間隔で設定することができます。



スリープボタンを押す。

スリープボタンを押すごとに、以下のように設定時間が変わります。

SLEEP 90M → SLEEP 80M → SLEEP 70M
↑ ↓
SLEEP OFF ← SLEEP 10M ..... SLEEP 60M

設定時間を確認する

スリープボタンを一度押します。

設定時間を変える

スリープボタンを繰り返し押して希望の設定時間に変更します。

スリープタイマー機能を解除する

スリープボタンを繰り返し押して、表示窓に「SLEEP OFF」を表示させます。

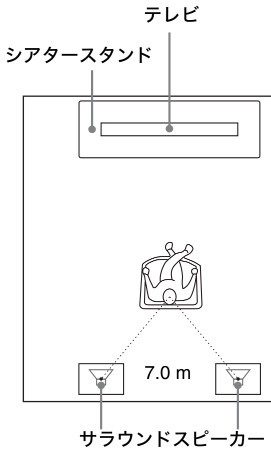
ご注意

- スリープタイマーは本機にだけ適用されます。本機に接続しているテレビや他の機器には使えません。

お持ちのスピーカーを追加して4.1チャンネルモードにする

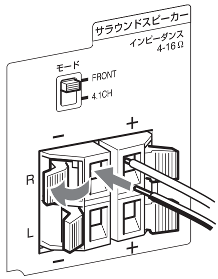
別売りのスピーカーを配置する

お持ちのスピーカーをサラウンドスピーカーとして接続することができます。
追加するスピーカーは下図のように、視聴位置より最大7 mまで離して設置してください。



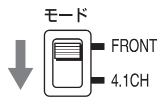
スピーカーを接続する

スピーカーを接続する



FRONTモードから4.1CHモードに切り替える

1　本機後面のFRONT/4.1CHスイッチを切り替える。



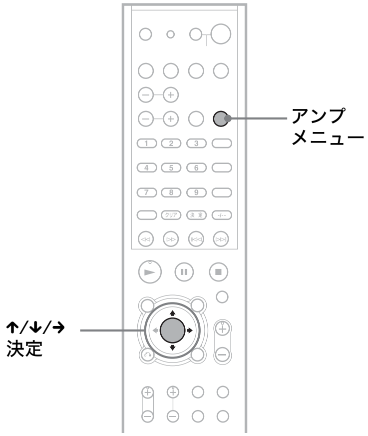
2　電源を切り、ふたたび電源を入れなおす。「4.1CH MODE」が表示される。

4.1チャンネルモードからフロントモードに変更するには

1. 本機後面のFRONT/4.1CHスイッチをFRONTにする。
2. 電源を切り、再び電源を入れなおす。「FRONT MODE」が表示される。

サラウンドスピーカーを設定する

サラウンドの効果は、接続したお持ちのスピーカーの大きさや、視聴位置からの距離によって決まります。
お買い上げ時の設定は、下線の項目です。



1 **アンプメニューボタンを押す。**

2 **表示窓に「SP SETUP」または「LEVEL」が表示されるまで↑/↓を繰り返し押し、表示されたら決定ボタンまたは→を押す。**

3 **↑/↓を使い項目を選択し、決定ボタンまたは→を押す。**

4 **↑/↓を使い希望の設定を選択し、決定ボタンを押す。**
設定項目が選ばれ、設定が終了します。

SP SETUP(スピーカーセットアップ) メニュー

■ SURR SP(サラウンドスピーカー)
サラウンドスピーカーを接続したときは、「SURROUND」の項目を設定してください。

[SURR YES]	サラウンドスピーカーを接続しているとき
[SURR NO]	サラウンドスピーカーを接続していないとき

■ FRONT DIST(フロントスピーカーの距離)
お買い上げ時の設定：3 m
1～7mの範囲で0.2mごとに設定できます。

■ SURR DIST(サラウンドスピーカーの距離)
お買い上げ時の設定：3 m
0～7mの範囲で0.2mごとに設定できます。

ご注意
- FRONT DISTで設定した値によって、SURR DISTで設定できる値は異なります。

LEVEL(レベル) メニュー

スピーカーのLEVELを変えることができます。テストトーンを使って簡単に調整ができます（27ページの「テストトーンを使ってレベルを調整する」をご覧ください）。

■ TEST TONE(テストトーン)

[T.TONE OFF]	テスト音は出ません。
[T.TONE ON]	レベルを調節する間、それぞれのスピーカーからテスト音が出ます。

■ FL LEVEL(フロントスピーカー (左) レベル)
お買い上げ時の設定：0dB
－6～0dBの範囲で1dBごとに設定できます。

■ FR LEVEL(フロントスピーカー (右)レベル)
お買い上げ時の設定：0dB
－6～0dBの範囲で1dBごとに設定できます。

■ SR LEVEL(サラウンドスピーカー (右)レベル)
お買い上げ時の設定：0dB
−6〜+6dBの範囲で1dBごとに設定できます。

■ SL LEVEL(サラウンドスピーカー (左) レベル)
お買い上げ時の設定：0dB
−6〜+6dBの範囲で1dBごとに設定できます。

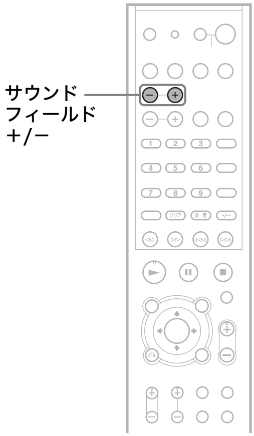
■ SW LEVEL(サブウーファーレベル)
お買い上げ時の設定：0dB
−6〜+6dBの範囲で1dBごとに設定できます。

テストトーンを使ってレベルを調整する

1 アンプメニューボタンを押す。
2 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「LEVEL」を表示させ、決定ボタンまたは→を押す。
3 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「TEST TONE」を表示させ、決定ボタンまたは→を押す。
4 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「T.TONE ON」を表示させる。
スピーカーから順番にテストトーンが出ます。
5 ←を押して戻り、↑/↓を繰り返し押してスピーカーを選ぶ。
「FL LEVEL」（左フロントスピーカーレベル）
「FR LEVEL」（右フロントスピーカーレベル）
「SR LEVEL」（右サラウンドスピーカーレベル）
「SL LEVEL」（左サラウンドスピーカーレベル）
「SW LEVEL」（サブウーファーレベル）
6 決定ボタンまたは→を押す。
選んだスピーカーからテストトーンが出ます。
7 視聴位置から、↑/↓を繰り返し押してスピーカーのレベルを調節する。
8 手順５から７を繰り返して、その他のスピーカーも調節する。
9 レベルの調整が終わったら、←を押して戻る。
10 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「TEST TONE」を表示させ、決定ボタンまたは→を押す。
11 ↑/↓を繰り返し押して表示窓に「T.TONE OFF」を表示させ、アンプメニューボタンを押してアンプメニュー画面表示を消す。

サウンドフィールドを選択する

本機に搭載されたサウンドフィールドを選択するだけで、映画館のような迫力のあるフロントサラウンドを、簡単にご家庭で楽しめます。



サウンドフィールド +/−ボタンを押す。

現在選択されているサウンドフィールドが表示されます。

設定したいサウンドフィールドが表示されるまでサウンドフィールド +/−ボタンを繰り返し押します。

サウンドフィールドの種類（4.1ch モードのとき）

サウンドフィールド	表示
AUTO FORMAT DIRECT AUTO	A.F.D. AUTO
Dolby Pro Logic	PRO LOGIC
Dolby Pro Logic II MOVIE	PLII MOVIE
Dolby Pro Logic II MUSIC	PLII MUSIC
2 CHANNEL STEREO	2CH STEREO
NEWS	NEWS
MULTI ST.	MULTI ST.

オリジナルサウンドを自動選択する

■ AUTO FORMAT DIRECT AUTO

この機能は音声信号の形式（Dolby digital、DTS、2チャンネルステレオ）を自動的に認識し、適切な音声信号で出力します。このモードでは反響効果などを加えることなく、録音されたままの音声を楽しめます。Dolby Digital LFEなどの低周波信号が録音されていない場合は、自動的に低周波信号をつくり、サブウーファーから出力します。

CDのような2チャンネルの音声を4.1チャンネルで出力する

■ Dolby Pro Logic

Dolby Pro Logicは2チャンネルの音声を、4.1チャンネルのPro Logicの音声に変換します。このモードでは、フロントスピーカー、サラウンドスピーカーから音声を出力します。ただしサラウンドチャンネルはモノラルになります。

■ Dolby Pro Logic II MOVIE/MUSIC

Dolby Pro Logic II は2チャンネル音声を4.1チャンネルで全帯域再生します。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダです。

ご注意

- 入力される信号がマルチチャンネル音声のときは、Dolby Pro LogicとDolby Pro Logic II MOVIE/MUSICの設定は無効になり、マルチチャンネル音声がそのまま出力されます。
- 2ヶ国語放送信号が入力されると、Dolby Pro LogicとDolby Pro Logic II MOVIE/MUSICは効果がありません。

フロントスピーカーとサブウーファーを使う

■ 2CH STEREO
音声信号の種類にかかわらず、2チャンネルステレオで再生します。

テレビの音声を出力する

■ NEWS
テレビのニュース番組やドラマなどの人の声をクリアにし、聞き取りやすくします。

サラウンドスピーカーから2チャンネル音声を出力する

■ MULTI ST.
このモードはフロントスピーカーとサラウンドスピーカーから同時に2チャンネル音声を出力します。サラウンドスピーカーはフロントスピーカーと同じ音声を出力します。

ご注意
- 本機は、AAC音声信号入力時MULTI ST.モードを選択した場合、サラウンドスピーカーから音声が出力されません。

ちょっと一言
- 本機は入力信号ごとに最後に設定したサウンドフィールドを記録します。

故障かな？と思ったら

本機の調子がおかしいとき、修理に出す前にもう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターにお問い合わせください。

全般

電源が入らない

→ 電源コードがしっかり差し込まれているか確認する。

本体の表示窓に「PROTECT」や「UNPLUG」が表示される。

電源コードをコンセントから抜いて以下の項目を確認する。

→ オプショナルスピーカーのスピーカーコードがショートしていないか？

→ 本機の通気孔がふさがっていないか？

上記の項目を点検し、もう一度電源コードをつなぎ電源を入れる。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーサービス窓口、お客様ご相談センターに問い合わせる。

Dolby DigitalやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない

→ DVDがDolby DigitalやDTSフォーマットで録音されているか確認する。

→ DVDプレーヤーなど、本機のデジタル入力端子に接続されている機器のオーディオ設定を確認する。

→ DVDプレーヤーの設定が正しいか確認する（DVDのメニュー画面からサウンドを確認します）。

サラウンド効果が得られない

→ サウンドフィールド+/−ボタンを押して、サウンドフィールド機能がオンになっていることを確認する。

→ デジタル音声信号によっては、サウンドフィールド機能が働かないことがある。

フロントスピーカーの片方から音が出ない

→ 接続している機器が、正しくオーディオプラグにつながれているか確認する。

→ 接続している機器のプラグと本機のプラグが、奥までしっかり差し込まれているか確認する。

左右の音のバランスが悪い、または左右から逆の音がでる

→ 機器が正しく接続されているか確認する。

→「LEVEL」メニューのバランス項目を調節する。

フロントモードでサラウンドスピーカーからの音が聞こえない、または音が小さい

→ サウンドフィールド+/− ボタンを押し、選択したサウンドフィールドを確認する。

→ FRONT/4.1CHスイッチが「FRONT」になっていることを確認する。

→ 本機の電源を切り、FRONT/4.1CHスイッチを「FRONT」に切り替えて電源を入れなおす。

→ 音声によっては、サラウンドスピーカーから充分な効果が得られないことがある。

4.1チャンネルモードで接続しているのにサラウンドスピーカーから音が出ない

→ サラウンドスピーカーの設定を確認する。

→ サウンドフィールド+/−ボタンを押し、選択したサウンドフィールドを確認する。

→ FRONT/4.1CHスイッチが「4.1CH」になっていることを確認する。

→ 本機の電源を切り、FRONT/4.1CHスイッチを「4.1CH」に切り替えて電源を入れなおす。

→ 音声によっては、サラウンドスピーカーから充分な効果が得られないことがある。

テレビの音声が映像より遅れる

→「A/V　SYNC」がオンに設定されていたら、「A/V　SYNC」をオフにする。

接続した機器

接続したどの機器を選んでも音が出ない、または音が小さい

→ スピーカーとそれぞれの機器が正しく接続されているか確認する。
→ 本機と接続した機器の電源かオンになっているか確認する。
→ 音量が最小になっていないか確認する。
→ 消音機能を解除するために消音ボタンを押す。

選択した機器から音が出ない

→ 接続している機器が、正しくオーディオ端子につながれているか確認する。
→ 接続している機器の端子と本機の端子が、奥までしっかり差し込まれているか確認する。
→ 接続している機器が正しく選択されているか確認する。
→ 一時停止した状態から再生したときなどに、音量が最大のまま再生しようとすると、音が出なくなる。その場合は、音量を下げてから電源を入れなおす。

音が途切れたり、ノイズが出る。

→ PCM96kHzの音声信号を入力している。本機はPCM96kHzの信号に対応していない。

テレビ画面に映像が出ない、または映像が不鮮明

→ テレビと本機が正しく接続されているか確認する。詳しくは、付属の「かんたん接続・操作ガイド」を見る。
→ お使いのDVDプレーヤーがプログレッシブに設定されているが、お使いのテレビはプログレッシブに対応していない。その場合、DVDプレーヤーの設定をインターレースにする。詳しくは、DVDプレーヤーに付属の取扱説明書を見る。
→ お使いのテレビがプログレッシブ信号（525p）に対応していても、DVDプレーヤーの設定をプログレッシブにしていると画像が乱れることがある。その場合、DVDプレーヤーの設定をインターレースにする。詳しくは、DVDプレーヤーに付属の取扱説明書を見る。
→ 本機でテレビが正しく選択されているか確認する。
→ テレビをビデオ入力などの該当する入力モードに設定する。

その他

リモコンが機能しない

→ 本機の受光部 🅁 に向けて操作する。
→ リモコンと本機との間に障害物を置かない。
→ 電池が古い場合は、すべての電池を新しいものに取り替える。
→ リモコンの正しいボタンを押しているか確認する。

付属のリモコンで操作しても、テレビの入力が切り換わらない

→ ソニー製のテレビのみ、本機のリモコンで入力を切り換えることができる。
→ リモコンの設定を変更する（14ページ）。

これらの処置をしても正常に動作しないときは―リセット

1 **I/⏻（電源）を押して電源を入れる。**

2 **本機のINPUT SELECTOR、VOLUME-、I/⏻（電源）を同時に押す。**
表示窓に「COLD RESET」と表示され、アンプメニューやサウンドフィールドなどがお買い上げ時の状態に戻ります。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書の「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にある近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間の経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

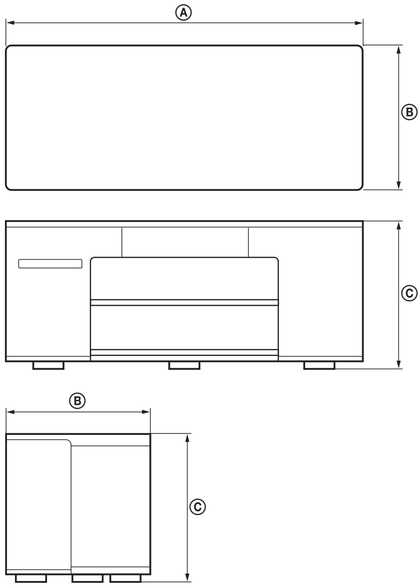
部品の保有期間について

当社では、ステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間を経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

ご相談になるときは、次のことをお知らせください。

- 型名：RHT-G1000
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様



最大外形寸法: mm	Ⓐ	1,205
	Ⓑ	510
	Ⓒ	495
質量: kg		64

アンプ部

実用最大出力

フロント部：85 W/CH
(1 kHz 4 Ω、JEITA*)
サラウンド部**：85 W/CH
(1 kHz 4 Ω、JEITA*)
サブウーファー部：170 W
(100 Hz 2 Ω、JEITA*)

* JEITA（電子情報技術産業協会）による測定値です。

** サウンドフィールドの設定によっては出力がない場合があります。

入力端子（アナログ）

TV、SAT、DVD、VIDEO

入力感度：590 mV
インピーダンス：25 kΩ

入力端子（デジタル）

TV、SAT、DVD、VIDEO（オプチカル）

SAT、DVD、VIDEO（コアキシャル）

インピーダンス：75 Ω

ビデオ部

出力/入力

映像：1 Vp-p、75 Ω
D4映像：Y：1 Vp-p、75 Ω
CB、CR：0.7 Vp-p、75 Ω

スピーカー部

フロント

スピーカーシステム

バスレフ型、防磁

スピーカーユニット

65mm、コーン型

サラウンド

スピーカーシステム

バスレフ型、防磁

スピーカーユニット

65mm、コーン型×2

サブウーファー

スピーカーシステム

バスレフ型、防磁

スピーカーユニット

160mm、コーン型×2

本体

電源

AC 100V、50/60Hz

消費電力

定型消費電力
電気用品安全法による表示：125 W
スタンバイ状態のとき：0.3 W

最大外形寸法（幅/高さ/奥行き）

1,205×495×550mm
(端子接続時)

質量

64.0kg

次のページへつづく

付属品
光デジタルコード（1.5m×1）
映像（黄）コード（1.5m×1）
リモコン（1）
乾電池（2）
保証書（1）
取扱説明書（1）
かんたん接続・操作ガイド（1）

別売りスピーカー *
定格インピーダンス　4～16Ω
* 別売りスピーカーとして、SS-MB360Hをお使いになることをお勧めします。

本機は「JIS C 61000-3-2適合品」です。

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

用語解説

ドルビーデジタル
ドルビーラボラトリーズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。ドルビーデジタルシネマ音声方式のような高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

ドルビープロロジックII
ドルビープロロジックIIは2チャンネルソースを5チャンネルで全帯域再生する。それを行うのが、ソースにない音や音の色付けを加えることなく、オリジナル録音の空間的特質を引き出す先進的で高音質のマトリックスサラウンドデコーダである。

AAC
BSデジタル放送で標準に定められたデジタル音声方式。「アドバンスド・オーディオ・コーディング（Advanced Audio Coding）」の略で、高い圧縮率で音楽CD並みの音質を実現する。

DTS
デジタルシアターシステムズ社の開発した音声のデジタル圧縮技術。5.1チャンネル・サラウンドに対応している。サラウンドチャンネルはステレオになり、サブウーファーチャンネルは独立して出力される。高水準のデジタル音声を5.1チャンネルで楽しむことができる。全チャンネルが完全に分離した状態で記録されるのでチャンネル間セパレーションが良く、すべてデジタルで受け渡しされるので劣化しにくいという特長がある。

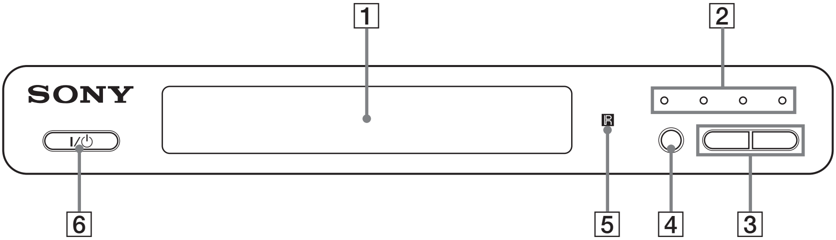
S-Force PRO Front Surround
ソニーがこれまで蓄積してきた膨大な音響データを解析し、独自のDSP技術を加えて開発したフロントサラウンドの技術。音像の距離感、空間性をより忠実に再現することが可能となり、後方にスピーカーを置くことなく、前方のスピーカーだけで広がりのあるサラウンドを楽しむことができる。

S-Master
ソニーが独自に開発したデジタルアンプ技術。従来のアナログアンプに比べ、原理的にゼロクロス歪みが発生しない点をはじめ、高効率で発熱が少ないため、小型化が容易であるなど、数々の特徴を備えている。

各部のなまえ

詳しい説明は（　）内のページをご覧ください。

本機前面



1 表示窓（36）

2 サウンドフィールドランプ（16, 28）

3 VOLUME（ボリューム）（音量）+/–ボタン

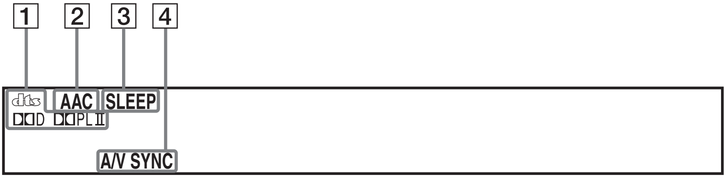
4 INPUT SELECTOR（インプットセレクター）ボタン

5 リモコン受光部

6 I/⏻（電源）ボタン

次のページへつづく

本機の表示窓



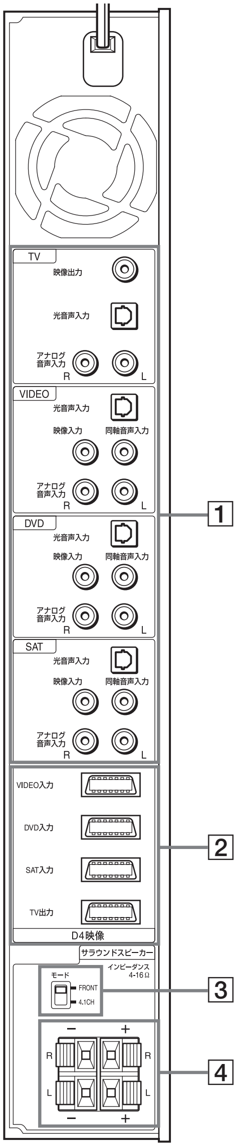
1 現在のサラウンドの状態。(16, 28)

2 AAC受信時に点灯。(20)

3 スリープモードのときに点滅。(24)

4 「AV/SYNC」が機能しているときに点灯。(21)

本機後面



1 TV/VIDEO/DVD/SAT（映像/音声、入力/出力）端子

2 D4映像（VIDEO/DVD/SAT/TV、入力/出力）端子

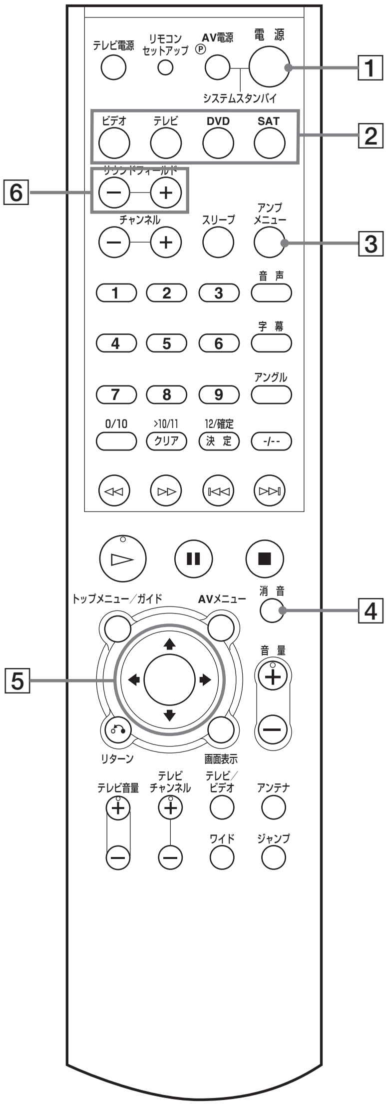
3 FRONT/4.1CHモードスイッチ（25）

4 サラウンドスピーカー出力端子（25）

次のページへつづく

リモコン

ここではアンプメニュー操作に必要なボタンのみ説明しています。つないだ機器の操作に必要なボタンについては12ページをご覧ください。



1 **電源ボタン**

2 **入力ボタン**

3 **アンプメニューボタン（17, 18, 19, 20, 21, 22, 26）**

4 **消音ボタン**

5 **←/↑/↓/→/決定ボタン（17, 18, 19, 20, 21, 22, 26）**

6 **サウンドフィールド＋/－ボタン（16, 28）**

商品の修理、お取扱い方法、お買物相談などの問い合わせ

● http://www.sony.co.jp/SonyDrive/

お客様ご相談センター

● ナビダイヤル ············ 0570-00-3311

（全国どこからでも市内通話料でご利用いただけます）

● 携帯電話・PHSでのご利用は···03-5448-3311

（ナビダイヤルがご利用できない場合はこちらをご利用ください）

● FAX ························· 0466-31-2595

受付時間 ：月～金 9:00～20:00　土・日・祝日 9:00～17:00
お電話は自動音声応答にてお受けしています。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Sony Corporation Printed in Malaysia